とらすととれいん

No.91　1998
MARCH

11年目の快走へ向けて、今年も運転日が決定！

4月18日・5月30日・6月27日・7月18日
8月29日・9月26日・10月3日・11月28日

金　谷	12:45	千　頭	15:30
新金谷	12:52	駿河徳山	15:41
家　山	13:23	下　泉	15:56
下　泉	13:44	家　山	16:15
駿河徳山	13:56	新金谷	16:44
千　頭	14:07	金　谷	16:49

運賃：金谷～千頭　1810円　SL急行料金：560円

C12が不調となり、本年度第一回運転の先頭に立ったC56 44

※トラストトレインボランティアに参加する際は、
必ず事前に財団事務所に参加表明をお願いします。

世界の社会探訪

その１ フィリッピンへ行ってみて

後藤正治

亡くなった大阪の元、市電運転士の吉谷さん程ではないが、正直、鉄道の無いに等しいフィリッピンには、全然行って見ようと云う気は無かったのです。

でも96年6月、1週間ばかりですが行って来たのです。それは「カーペンターツアー」と云う名前でした。カーペンターツアー、つまり大工仕事をするボランティア・ツアーなのです。

仕事の内容は当時、新聞によく出たフィリッピンの「元戦争慰安婦」の家で、特に台風等で壊れても資金も無く自分で直せない人の家を「雨期前に屋根だけでも直してあげる」ことでした。私としては、つまり「トラストの客車を大井川迄、補修に行く」のと私の職業が役に立つと云う事では同じだったのです。

メンバーはコンダクターの他に4人、左官、教員、設計士で名前通りなのは私1人でした。保守的な私の職業・業界故、仕方がないと思います。

現地では効率ヨク廼るため昼寝（シェスタ）もせず日本でと同じ様に、日中、屋根上ではトタン板にさわるとヤケドをする位、熱くても仕事をしました。でも、現地の方は注目しませんでした。

ある日マニラの江東地区（0メートル地帯）と思われる地区の家に行ったのです、その家には近隣の「元慰安婦」5〜6人が集まって居、他に此の家の家族など、10人位集まっていました。私達は仕事が終わったので昼食をゴチソーになった後、「元慰安婦」の人達も引き続き昼食を取ったのです。彼女達が昼食を終えたので、私達は次の家へ修理に向かおうとしましたが、引き止められたのです。

彼女達は食事後、お茶を飲みながら音楽テープをカケ、ダンスを始めたのです。何曲か踊った後、日本人も一緒に踊れと誘うのです。

コンダクターは日本人仲間と顔を最合わせて、苦笑していましたが……。

此のコトは効率主義の日本人的な考えと、日中熱い気温に逆らわず、物質的には「恵まれなくてもユッタリと暮らす」フィリッピン文化の違いを見せつけられたと云う事だと思うのです。

現在の日本を、振り返って見れば世界で何番目と云う金持ち国（だと云われるが）では有っても、何時もせかゝとした落ち着きない人々の国ではないでしょうか……。

色々と考えさせられる、機会を作った旅だったと思っています。

注
シェスタ＝スペイン語　SIESTA
昼寝時間
熱帯地方特有の生活習慣で、昼食後の日中一番熱い時間に、体力消耗を防ぐ為昼寝する。
一例：エジプトのカイロでは、一日にラッシュが4回有る。

セブ島の山中で直した一番粗末な家。トタン、ベニヤ等色々な物がバイクの古タイヤを押さえとして乗っていた。此の様な家でもドロボーに入られることが有るそう……。96.6.10

その２ フィリッピン鉄道……見たまま。

フィリッピン鉄道の様子に付いては、行く前に下調べはして行ったのですが……マニラから北へ車で一時間以上の処にある家を修理したらば、グーゼンその家の北側をルソン島北部へ向かう国鉄休止線のレールが錆びたまま放置されているのを見つけました。

又、ツアー最後の日、コンダクターは私の為に気を使って、作業後、車に全員を乗せたまま、マニラの国鉄始発駅へ向かってくれました。

マニラからルソン島北部へ向かうフィリッピン国鉄の休止中の線路。子供の背中方の家の屋根を直した。96.6.13

マニラ首都圏を南北に縦断する、15㎞ほどのLRTヨーロッパスタイルの市電（3車体連接車）が大通りの上の高架を走る形で、駅は全体に屋根が有り料金は6.5P（ペソ）（約25円）均一です。南端のバクララン駅で。96.6.16

此の家の家族も交えて元慰安婦たちはダンスをはじめ、私達にも一緒にと云いだした。96.6.15

でも、地元出身の運転士も国鉄駅を知らないのです、何人もの人に聞きながら、地図を見ながらやっと現在始発駅となっている、パコ(PACO)駅を見つけたのです。早速、中年女性の駅員に色々と聞いたのですが、南方へ向かう最長列車の運転区間は、思っていたより短くなっている様で、しかも着時刻が明方3時半と云う理解出来ない時刻なのです。

その上、此の駅員、駅員なのにナント「バスで行った方が良いですよ」！と云うのです。ドウナッテルノ………。

と云うことで帰りの航空券が延期できるのかどうか調べもせずに帰国してしまいました。

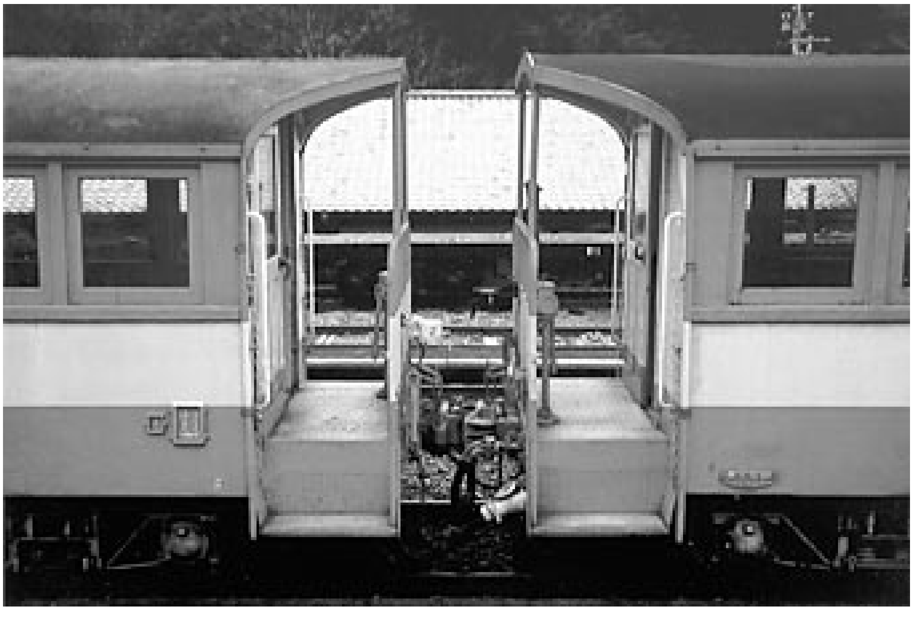
大井川にもう一つの鉄道遺産！

私達がボランティアをしているトラストトレインの終点千頭から、井川線が大井川鉄道により運行されています。皆さんご存じのようにこの鉄道、いろいろな意味でユニークですね。ゲージは1067㎜なのに車体はナロー、途中1.5㎞の電化とアプト区間、そして所有者は中部電力etc…。

戦後の日本の復興は、石炭の増産と安定的な電力の確保が国家政策の基本であった。南北に連なる日本アルプスの水力に着目し、北は黒部、天竜川の佐久間そしてここ井川と、鉄道とリンクして電力開発が行われた。

そして今年3月、人間の飲み水、流量調整を主目的に長島ダム本体が完成したが、その資材は殆ど自動車輸送であり、開発目的、方法等の時代差を感ぜざるを得ない。今や観光とごく少数の地域密着輸送の路線と化した井川線も、長島ダム全体計画の完成とその後1～2年をかけた長島湖満水化により、2001年頃にはどのように変化して行くのだろうか。

永遠の美女楊貴妃のように美しい編成　川根両国～沢間　98.3.1



美の根源は切れ上がったうなじ（屋根）であろう　川根両国 98.3.1

処分保留の頃のDB9＋スハフ7　川根両国車両区 97.7.18

更なる集客はダムと湖だけで大丈夫か。全国各地の人造湖の集客力は、黒部を除いて一過性ではないだろうか。黒部は山の雄大さもさることながら、交通機関の多様性も売りであろう。こう考えると井川線は、奥大井の要であり続けなければならないのだろう。渓谷や湖上に魅力ある多様な列車。これがキーワードだ！

そんな夜明けは始まっている。DB＋スハフがこの冬から春だけでも三回も貸し切りで運転された。もっとオープンな形での運行になればブームになるだろう。

機関車も客車もタイムスリップした魅力をもっている。今のところ貸し切り運転は千頭〜奥泉だが、思い切って接阻峡温泉〜関の沢側線なども話題となる運行ではないだろうか。

こう考えるとDBは2両しか無く、スハフ7は昨年7月から検査切れで川根両国で休眠、稼働3両となってしまった。大事に使って21世紀も運転できれば痛快ではないか。それが経済大国の基礎を作った車両の生ける保存と言うものではないだろうか。

練馬区在住　鈴木毅一

棚森区長の検査を受けるスハフ7
川根両国車両区 97.7.18

日本ナショナルトラスト・鉄道サークル（関西）　平成九年10月10日実施

信楽高原鐵道沿線を訪ねて・見学会報告

網谷りょういち

恒例となっている、体育の日の鉄道サークル・トラストハイクは、今年は第三セクターの信楽高原鐵道沿線を訪ねることにした。草津線の貴生川駅で乗車した会員と、車で来て紫香樂宮跡駅で合流した会員をあわせて、参加者は平野夫妻・鳥居・山中・阿曽・小村・網谷の七名であった。トラストハイクの日はいつも好天に恵まれるのだが、地域の運動会と重なるので、参加者は少な目になる傾向がある。それでも七名のうち四名は名古屋地区からの参加で、普段はお会いしない方々との交流ができた。

信楽高原鐵道（SKR）といえば、六年前に四二名の犠牲者が出た信楽高原鐵道事故を思い出すのだが、信号機には今も白い板のペケ印が打たれていて痛ましい。小野谷信号場の行き違い設備も使われないままで現状保存されている。事故後にSKRの経営が思わしくないとの話を聞いていたので、乗客の数がどの程度か心配だったが、休日のせいか座席は満席で立客もある状態で、この乗車率ならまずまずと安心した。鉄道の日記念の小学生の一日駅長も乗車していて、車内での挨拶に乗客からも暖かい拍手が送られていた。

最初は紫香樂宮跡駅で下車して、信楽高原鐵道事故慰霊碑に参拝し、近くの不動寺には、事故当時に現地に作られていた慰霊堂が移設されているので、こちらにも参拝した。

次いで東海道自然歩道を歩いて紫香樂宮跡に行き、ここでお弁当とした。ここは聖武天皇が天平14年（742）に離宮を造営した場所で、335個の礎石が残存する甲賀国分寺となった甲可寺の遺跡である。紫香樂宮造営の時に、この地で布目瓦を焼いたのが、信楽焼の発祥と言われている。

雲井駅に戻って信楽駅まで列車に乗り、信楽駅構内に併設されている「セーフティーしがらき」を見学した。これは事故の経験を風化させないようにと「鉄道安全推進会議」が提唱した資料館で、97年4月にオープンしたばかりである。鉄道ファンらしく、車庫に行ってSKR300形車両を見学した。この車両は事故の教訓を基に設計された安全車両で、衝突時に備えたオイルダンパーなど、各種の安全設備が装備されている。

このあと、日本最大の登り窯のある宗陶苑まで行くと、幸いにも煙が揚がっていて「おおだき」の最中であった。登り窯は11の室に分かれていて、10日間ぶっ通しで火袋に薪を投げ入れる。年間8回ほど火を入れるが、「炎と神がなせる技」と言われる、火の入った登り窯を見るのは筆者も初めてであった。登り窯で作られた湯呑を土産に買ったりして、一同はお茶を戴きながら、ご当主から信楽焼の苦心談などを伺い満足した。

帰途に信楽伝統産業会館に寄り、信楽焼の歴史を各時代を追って見学するうちに16時となり、満足した一日を振り返って信楽駅で解散した。今回は鉄道サークルの見学会だったので、鉄道関連の施設も多かったが、一般の会員を対象にして、信楽の町と信楽焼を対象とした見学会も企画してみたいものだと思った。

なお筆者は『信楽高原鐵道事故』という題名の本（ノンフィクション）を著作して、日本経済評論社より10月20日に刊行した。ご興味のある方にはご一読を戴き、各位へのご推挙も戴ければ幸いであると思っている。

信楽高原鐵道事故慰霊碑前での記念撮影

鉄道サークル定例会報告

会報に関して

　会報担当者が超多忙のため、会報の発行が大幅に滞っており、メンバーの方には大変ご迷惑をおかけしております。

　会報発行で、一番手間がかかり、大変なのはレーザープリンタでのプリントアウトです。担当者は、フリーでパソコンを使用する仕事をしており、しかも、1台しかパソコンを所有してないため、長時間、会報制作のために、パソコンを占有するわけにはいきません。今までは、それでもどうにかこなしてきていただきましたが、ここへきて、行き詰まってしまっている状況です。

　そのような中で、今後どのように会報を位置づけ、スムーズに発行していけるのか、先の定例会で話し合った結果、次号より、編集担当者に、岩野、織田両氏（まだ20代の若者）になっていただくとともに、一部の担当者だけに頼るのではなく、編集会議を毎定例会に組み込み、できる人ができる範囲で関わっていくことになりました。

　もちろん、パソコンのオペレータとして田中光一氏にもお手伝いいただきます。

　問題点として、会報の印刷、発送作業などがあり、印刷に関しては、現状のままでプリンターを使用して行うのか、印刷屋に発注するのか、発注するとして、単なるコピーでいいのか、簡易印刷で行うのか、現在調査、検討中です。

　発送作業に関しては、その都度、招集をかけ、作業を行うことになりました。

　また、会報の位置づけとして、インフォメーションが第一であるのか、メンバーの交流の場としてあるべきものなのか、ある程度、読み物としての体裁を整えていくべきなのか、なかなか一長一短には結論が出せないので、今後の試行錯誤課題として検討していくことになりました。

　メンバーの方も、積極的に参加していただくとともに、何かご意見、ご要望があれば、別項のように定例会を開いておりますので、ご参加いただくか、もしくは財団あて、はがき、ファクス、サークル事務担当渡辺あてメール(nabemoku@nn.iij4u.or.jp)でお送りください。

　発送作業時など、メンバーを召集する際の連絡方法は、同封のはがきをもとに、メール、ファクス、電話（携帯）の順で選ばせていただきます。

　なるべく、メール、ファクスでこちらから発信できるようご協力お願いします。

定例会の定例化

　定例会で、次回定例会の日程を決めていましたが、会報の遅れなどにより、延び延びになってしまったりしたことから、定期的に定例会を開催することになりました。

　詳細は別項参照してください。

トラストトレインボランティアについて

ボランティアリーダーの確立

　今年もトラストトレインが動き始めました。11年目を迎え、初心に返って新たな一歩を踏み出そう、ということで、まず、当日のボランティアリーダーが誰であるのかをはっきりさせます。そのためには、誰が参加するのか前もって把握していなければなりません。したがって、参加申し込みは必ずするように呼びかけることになりました。

　これは、当日のボランティア作業にも関わることなので、特に、鉄道サークルのメンバーには徹底していただきたいと思います。

ボランティアマニュアル作成

鉄道サークルのメンバーであるないに関わらず、初めてトラストトレインボランティアに参加する方のために、わかりやすいボランティアマニュアルを作ろうということになりました。もちろん、以前からあったものですが、初めて参加したときの様子などをメンバーに聞くと、必ずしもわかりやすいものではないようです。極論すれば、初めて、もしくはボランティア初心者だけでもスムーズに作業ができることを目標に、マニュアル作りを進めていきたいと思います。

この、ボランティア初心者の件を含め、いかに短い時間内で、効率的にボランティア作業を進められるかは、上記ボランティアリーダーの確立ということにも深く関わってきます。あらためて、参加人数、誰が来られるのかを前もって把握することの重要さが分かっていただけるでしょう。

名簿

次号会報に名簿を同封する予定です。つきましては、前もって、メンバーの方の調査を行いますので、下記の通りご協力願います。

同封のはがきについて

・氏名のフリガナを忘れずにご記入ください。
・郵便番号はできれば7桁で。住所は楷書でわかりやすくお書きください。
・緊急連絡は、定例会の中止、延期、会報の編集、発送作業を急遽行うための連絡先とさせていただきます。

注意

次号会報に同封予定の名簿に、ご自分の住所氏名を乗せたくない場合は、掲載不許可に必ず○印を付けてください。
基本的に、掲載不許可の方には名簿を同封いたしませんのであらかじめご了承ください。
過去に、悪用された例(仕事でのダイレクトメール)があることもご承知ください。
締め切りは6月20日です。

渡辺一男　Tel/Fax 045-621-0903
E-mail nabemoku@nn.iij4u.or.jp

とらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいん

今日のひとコマ

女性客がいると
車販にも力が入る

サークル会費納入のお願い

大変に遅くなりましたが、1998年度のサークル会費の徴収をいたしますので、皆様のご協力をお願いします。

会　　費　2,000円

納入方法

1.郵便振替（同封の振替用紙）

00140 -7 - 408646　加入者名　日本ナショナルトラスト鉄道サークル

2.財団事務所へ持参

締　　切　6月30日

※ご注意

◎振替用紙が同封されていない方は、納める必要がありません。

◎財団の口座へ振り込まれる方がおられますが、財団とサークルの会計は全く独立したものであり、事務処理の煩雑化等、財団の経理担当者への負担を減らすためにも、上記の方法でお願いします。

◎したがって銀行口座からの自動引き落としにも対応しておりませんので、お間違えの無いようお願いします。

とらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいんとらすととれいん

C56を先頭に新金谷に進入するトラストトレイン

いんふぉめいしょん

関東地区での定例会の開催について

現在、関東地区では財団の事務所にて定例会を開催していますが、みなさんが参加しやすいように、スケジュールを決めて、定期的に開催することにいたしました。

開催日は4・5・6月の3ヶ月間は第1と第3木曜日の月2回開催として、時間は19時頃から開始します。それ以降は、月1回・第3木曜日の開催を目途に検討したいと思います。

これにより、関東地区以外の方でも、出張等の機会に参加する予定も立てやすくなるのではないでしょうか。

なお、何かの都合で急遽開催されなくなることも考えられますので、事前に財団事務局への連絡を入れていただいた方が良いと思います。

次回の定例会は6月4日（木）です。皆様のご参加をお待ちしております。

親睦会の開催について（予定）

来る8月29日（土）に、笹間渡付近に今春オープンしたばかりのコテージに宿泊し、メンバー相互の親睦を深めるためのイベントを開催します。

・コテージは、6人用1棟、4人用3棟、計18人まで宿泊可能。
・河原でのバーベキュー大会も開催か？
・トラストトレインの補修作業も行うかもしれません。
・詳細は近日発表

新刊紹介

「フリーテクイラストで、車両！」

フリーテクイラストとはフリーハンドライティングテクニカルイラストレーションのこと。この技法で宮田氏が国内各社の車両を、全体から細部までにわたり、写真では描ききれないところまでを丁寧に分かりやすく解説している。

発行しているのは、当サークルのメンバーでもある水谷さんの会社です。ご希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

定　価：1,000円（消費税別）
著　者：宮田道一
発行所：有限会社アトリエみずたに
〒152-0035目黒区自由が丘2-6-1
03-3723-9160　FAX 03-3723-1522

編集後記

大変お待たせしました。会報の最新号をお送りいたします。
単に私の仕事が忙しかったために、こんなにも発行が遅れてしまいました。あまり間隔が開いてしまったので、作り方を思い出すのに一苦労、なんて事はありませんが…。
なんとレーザープリンタをバージョンアップ！毎分4枚から毎分6枚へと50%のスピードアップ！すごい

定例会等のサークルの催しに参加する方は、必ず参加表明をお願いします。誰が参加するか分からないと運営が出来ません。ご協力のほどを。よろしくネッと。

日本ナショナルトラスト鉄道サークル　会報　とらすととれいん　第91号　1998年3月号
〒100-0005　千代田区丸の内3丁目4番1号　新国際ビルヂング810区　Phone03-3214-2631　Fax03-3214-2633